

甲賀を歩く

令和5年12月 撮影：匿名希望

甲賀の修験道の山を歩きました。江戸時代にはとてつもない僧兵を抱えていたらしい。

岩場くぐり、崖を這って覗きへ👁

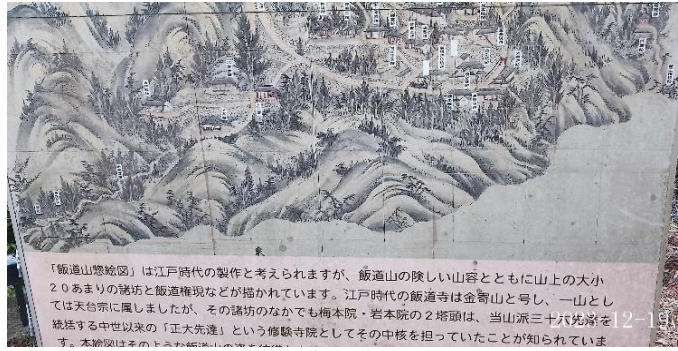
寒かった頃なので霜が溶けて、落ち葉が滑りやすく怖かった。

また、初めて事故で有名になった信楽鉄道に乗りました。初乗り410円…ワーお

駅に向かう途中は紫香楽宮遺跡です。AD700年頃ですかねえ。

信楽焼の始祖の遺跡（窯跡）も。





国指定史跡 紫香楽宮跡（新宮神社地区）

奈良時代（平成22年8月5日追加指定）
所在地 甲賀市信楽町黄瀬

新宮神社遺跡は、奈良時代の官衙建物や井戸、道路と橋脚が見つかった遺跡で、新名神高速道路の北側の丘陵部を含む約19,900㎡の範囲が史跡紫香楽宮跡として追加指定されました。

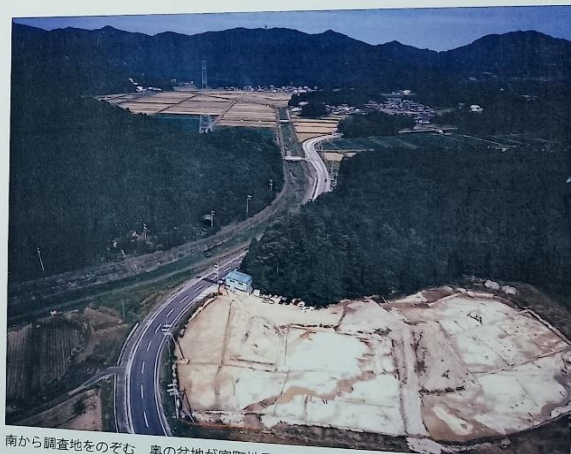
道路は、側溝と見られる南北方向の溝の間隔や橋脚の規模から、幅約12mと約18mの2本の存在が確認されています。この道路の南側の延長線上には、内裏野地区の寺院跡の中軸線が重なっており、紫香楽宮の諸施設が計画的に整備されたことがうかがえます。また、道路の北側で見つかった橋脚は、幅約5mの川に架けられた橋に伴うもので、橋脚の部材には天平16(744)年に伐採されたヒノキが使われていたことから、紫香楽宮の造営時期に建設されたことがわかりました。



この道路の東側には、南北に並ぶ2棟の掘立柱建物と、そのさらに北東に東西向きに建つ1棟が見つかっており、周辺から役所で使われる土器や転用硯、墨書土器が出土していることなどから、紫香楽宮に関わる官衙建物と考えられていて、橋が架けられていた川からは、天平16(744)年10月銘の荷札木簡も出土しています。また、新名神高速道路北側の丘陵には、道路跡と見られる切り通し状の地形が確認されていて、発掘調査で見つかった南北道路が丘陵の裾で屈曲し、その切り通しに繋がっていたと見られています。

現在、発掘調査で見えられた遺跡は、高速道路の建設工法の変更によって地下に保存されています。

この説明板は全国モーターボート競走施行者協議会助成事業で設置しました。



南から調査地をのぞむ 奥の盆地が宮町地区（宮殿跡）

2023-12-19 13:33

この看板の設置にあたり、近江鍛冶...



2023-12-19 14:01:09